

審判員派遣報告書

派遣事業名	令和6年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	派遣期日	令和6年8月3日～5日
報告者	高田 開	派遣先	福岡市総合体育館 (照葉積水ハウスアリーナ)

1. 大会概要

大会名称	令和6年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会	大会期間	令和6年8月3日～8月9日
大会概要	各県代表校のトーナメント制による優勝決定戦。		

2. 担当試合 ※ (試合内容は簡潔に書いてください)

日程	令和6年8月4日	会場	福岡市総合体育館
審判クルー	CC:土門氏(山形) U1:中野氏(東京) U2:高田		
担当試合	(男子1回戦) 県立四日市工業 vs. 県立広島皆実		
試合内容	第1Qは広島皆実が高確率のアウトサイドシュートで大量リードを奪う。第2Q以降は拮抗した展開となるが、強度の高いDFでターンオーバーを誘発した四日市工業が第4Q中盤に逆転。しかし、最後の3分間で着実に得点を重ねた広島皆実に軍配。		

日程	令和6年8月5日	会場	福岡市総合体育館
審判クルー	CC:細見氏(大阪) U1:高田 U2:村本氏(福岡)		
担当試合	(男子2回戦) 開志国際 vs. 國學院大學久我山		
試合内容	シード校のため初戦となる開志国際と1回戦を勝ち上がった國學院大學久我山の一戦。開志国際が前に出る展開で試合はスタートしたが、外国籍選手のファウルトラブルを誘った國學院大學久我山。前半は互角の戦い。後半、國學院大學久我山のゾーンDFを多彩に打ち破った開志国際が一気に流れを掴み大差で勝利。		

3. 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●事前研修会での学び（IH・全中合同事前研修会：7月25日、29日にオンラインにて受講）

・「Patient と Cadence について」

今大会の重点項目でもある Patient と Cadence について講義を受けた。これらの用語は判定の時期に関するものであり、それぞれ用語の考え方と具体的な時期を教示いただいた。

Patient whistle：プレーの Start→Development→Finish を確認したのち、Primary レフェリーがコールすること。具体的な時期は「着地」を確認したあと。

Cadence whistle：Primary レフェリーの判定のあと、明らかにコールすることが必要なものに Secondary レフェリーがコールすること。具体的な時期は Primary レフェリーの Patient whistle の時期のさらにあと。

プレーコーリングガイドライン（20230629）において、ファウル成立基準の3原則に「発見」→「分析」→「決断」の項目が追加されたが、2つの用語はこの「決断」にあたる用語であり、決断する人と時期の違いによって言葉分けされたものと認識した。これらの用語が新しい概念ではなく、かねてよりマニュアルにも記載のあった、Primary と Secondary の理解の延長であることを確認することができた。決断を下すにあたっては、プレーを長く捉え、より多くの情報をもって分析し、プレー全体を総合的に判断して必要なものにコールしていく意識だと学んだ。

・「TO 連携とコミュニケーション」

TO ミーティングにおいて、TO と短い時間で良い関係を構築するための有効な言葉掛けとして、「わからないことがあったら聞いて」よりも「聞くかどうか迷ったら聞いて」と伝えた方が、心を開いてくれやすいと教示いただいた。これは、ビジネスの場面で上司から部下への働きかけで、良好な職場環境を作る有効なワードの1つとして紹介いただいた。レフェリーと TO の関係に限らず、良い関係を築くということにおいての学びと実践の場は仕事や日常生活に多くあり、多方面からの学びを大切にしたい。

●大会従事、全体を通しての学び

・「Basic 徹底の意識の高まりについて」

ゲーム前の準備、ゲーム後の反省において、すべてが Basic に基づくものだったと振り返る。正しい判定を積み重ねるための「keep doing basic mechanics」を2試合ともクルーで実践できたと感じる。初めて組むクルーでも共通理解をもってゲームに臨むことができたため、良い安心感の中で試合を楽しむことができた。全国的にライセンス関係なく Basic の理解レベルは高まっていると事前研修会でも言っておられ、より高いレベルの試合を担当するためには、高いレベルの試合でも通用する Basic をどれだけ習慣化することができるかが大事だと感じた。

4. その他

この度は、表題の大会に派遣いただきまして誠にありがとうございました。日々ご指導、サポートいただいております皆様に深く感謝申し上げます。

今大会で得られた学びを自身の活動に生かし、皆さまに共有して参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。